

第5回釧路生活困窮者自立支援検討委員会・議事録（要約）

■開催日時

平成27年12月3日（木） 10:00～12:30

■開催場所

ビケンワークビル4F 釧路社会的企業創造協議会事務所（北大通12丁目1-14）

■実施テーマ

企業と生活困窮者支援の連携について

■議事

- 10:00 開会
- 10:10～10:45 話題提供①（35分）
- 10:45～11:20 話題提供②（35分）
- 11:20～12:25 第2回生活困窮者自立支援全国研究交流大会・報告会（65分）
- 12:25～12:30 閉会（5分）

■出席者（五十音順）

<委員>

- ・釧路市連合町内会 副会長・総務部長 安藤 朝興 氏
- ・東部北地域包括支援センター・所長 伊藤 靖代 氏
- ・釧路地区障害老人を支える会（たんぽぽの会）・前会長 岩渕 雅子 氏
- ・釧路市社会福祉協議会・事務局長 小野 信一 氏
- ・釧路市障がい者基幹相談支援センター・課長補佐 相談支援専門員 金子 一也 氏
- ・元釧路市教育委員、NPO法人駆け込みシェルター釧路・副代表 後藤 哲子 氏
- ・ハート釧路・施設長 佐々木 寛 氏
- ・わたすげ・代表 下山 裕子 氏
- ・釧路地区保護司会 津田 鉄子 氏
- ・株式会社そんぐ代表取締役、ケアセンター・所長 椿 玲子 氏
- ・釧路民生委員児童委員協議会・会長 土井 英昭 氏
- ・有限会社釧路フィッシュ・代表取締役 平野 勝幸 氏
- ・前釧路市消防本部消防長・民生委員 星光二 氏
- ・一般社団法人立支舎・代表理事、社会保険労務士 三木 克敏 氏
- ・釧路専門学校・事務主任、北海道社会福祉士会釧路地区支部・社会福祉士 吉村 寿人 氏

<オブザーバー>

・ハローワークくしろ 次長	鎌田 英一 氏
・法テラス釧路 事務局長	島元 禎登 氏
・法テラス釧路 弁護士	阿相 裕隆 氏
・法テラス釧路 弁護士	佐藤 圭 氏
・釧路市福祉部生活福祉事務所 主幹	都嶋 和英 氏
・釧路市総合政策部 都市経営課 専門員	小西 芳武 氏
・釧路新聞社編集制作局報道部 副部長	坂上 めぐみ 氏
・日本経済新聞社 釧路支局支局長兼東京地方部編集委員	野間 清尚 氏

<事務局>

・一般社団法人釧路社会的企業創造協議会 代表理事	小和田 力
・一般社団法人釧路社会的企業創造協議会 副代表	櫛部 武俊
・一般社団法人釧路社会的企業創造協議会 事務局長	相原 真樹
・一般社団法人釧路社会的企業創造協議会 相談支援員	山家 由三

計：27名

■議事録

【話題提供①】

◎企業紹介

- ・訪問介護・居宅支援事業所・介護職員初任者研修等教育事業・有料老人ホーム・給食事業・コンサルティング関連事業の運営
- ・大手企業のリストラを教訓に～目標は「人や会社が見える～安心できるサービス提供と、働く職場づくり」

◎介護職員初任者研修の様相変化

- ・自費での受講の減少、積極性の欠如

◎生活困窮者支援の取組み

- ・自立支援プログラムの前身
 - 母子家庭のお母さんがヘルパーと同行、思わぬ大反響
 - その後資格取得し働き始めたお母さんも

◎初任者研修受講者からの相談事例「明日から収入が無い」

- ・協力企業の社宅を利用し住居確保、自社で採用し生活の糧を
 - 企業の直接支援しようという気持ちが偶然を引き寄せる
 - 偶然使っていない社宅、偶然大手が不足

- ・採用の決め手は「意欲の高さ」と「人柄」

◎今後の連携

- ・普段の事業の中での連携～ケアマネージャーや訪問介護員のカ～
→発見し、相談の入口へ
- ・介護職における資格取得支援・就労支援
→教え、育て、相談の出口へ
- ・入口出口の懸け橋に

◎介護における「新3K」の提案

- ・心 kokoro が通う、輝き kagayaki 期待 kitai される

◎意見交換

- ・同じく介護事業をやっているが、本当に人手不足が深刻
- ・自発的な介護人材の減少
→本当に向いていない人には違う職種を目指す支援も
- ・包括支援センターとの連携について
→困難ケースの対応では包括支援センターの力が欠かせない
- ・就職率を求められない初任者研修も必要
→居場所機能を発揮、共に学ぶことの効果

【話題提供②】

◎障がい者雇用を通して思うこと

- ・親から子供に対する経済的搾取「お父さんに貸したお金が返って来ない…」
→親が子供の自立を阻害している事例の多さ
- ・障がい者の成長
→障がい者は技術の向上はあっても人間的な成長はないという思い込みがあった
→「もっとコミュニケーションが上手になりたい」という言葉
→ 健常者も障がい者も変わらない、支える環境があれば誰でも成長する

◎少しのきっかけで困窮から脱出～ある親子の事例～

- ・社宅として購入したアパートに住んでいた親子
- ・リフォームの同意、ゴミ屋敷の問題
- ・企業としてゴミ処理等のお手伝い
→従業員からの「何故そこまでする」という声
- ・明日は我が身～きっかけは父親の急死～
→落ち込んで塞ぎ込んだ娘と、ギリギリの生活を維持していた母
→どこに相談したらいいのかわからない

- ・ リフォーム完了後の訪問、「どうぞお上がり下さい」
- ・ 少しの余裕、少しの幸せのおすそ分けで救われる人が沢山いる

◎意見交換

- ・ 従業員の「浮かない顔」に気付いて働きかけることの凄さ
- ・ 虐待防止法における経済的虐待
 - 本人の収入？世帯の収入？
 - 日本における「世帯」意識の強さ、法的な整理の曖昧さ
- ・ 親も生活苦という現実的問題
 - 福祉や雇用の分野だけでは解決しない、全体で考えることの重要性
- ・ 親子で障害を抱えている事例
- ・ ジョブコーチの役割
 - 仕事の適性を考えるのは企業、ジョブコーチは企業が見えない部分を担って貰う

◎総括

- ・ 先進国の合意「インクルーシブな成長」「格差・貧困は成長の足枷」
- ・ 100人いれば100通りの生活、本当の意味での包括
- ・ 共生型雇用
 - 現状では分野間での食い合いが生じてしまうという現実、共通のプラットフォームが必要

以上